

# 低い外国人女性の出生力とその決定要因

－国勢調査個票データを用いた同居児法による分析－

Fertility of Immigrant Women in Japan

An Analysis by Own-children Method based on the Micro-data from the Population Census of Japan

国立社会保障・人口問題研究

是川 夕

National Institute of Population and Social Security Research

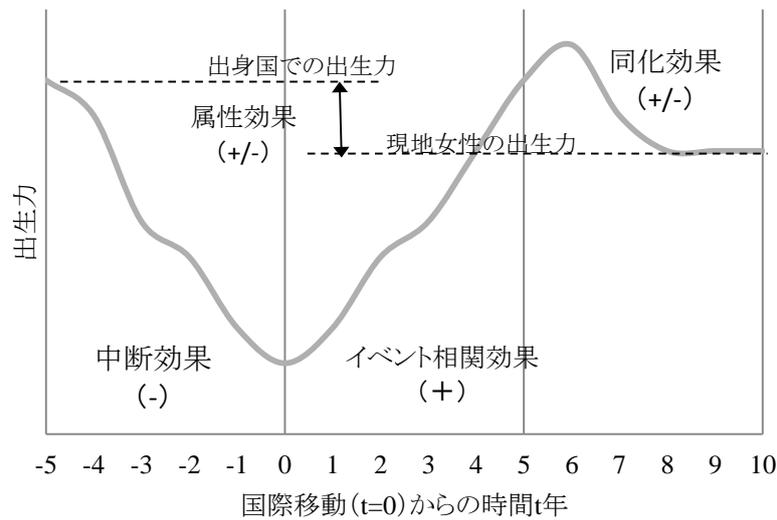
Yu KOREKAWA

本研究は国勢調査の個票データをもとに、同居児法を用いて、配偶関係の種類、国際移動、及び居住期間の長期化の影響等、同化理論の枠組みから、外国人女性の出生力について明らかにした。それによって、低出生力下における国際移民の流入が日本の人口変動へ与える影響について明らかにした。

外国人女性の出生力は、国際移動に伴う中断効果から、短期的にはイベント相関効果、中長期的には同化効果による回復過程にあるものの、その回復力は無配偶者を除けば、十分ではなく、外国人女性の出生力は日本人女性と比較して総じて低い水準にとどまると考えられる。また、その主な原因としては、日本人女性を含め日本における育児、出産環境一般が厳しい中、外国人女性を取り巻く状況がより厳しいものであること、及び、これに加え、日本人男性と結婚している場合には、夫婦関係が相対的に不安定であることが予想され、それらの結果、出生力が抑制されていることが考えられる。

更に、仮に実際の日本人女性の間で、外国人女性と同じ出生行動上の特徴が見られた場合、無配偶者の多い若年層を中心に日本人女性よりも高い出生力が見られる場合もあるものの、有配偶者を中心とした30歳前後の出生力が低いことから、全体としては日本人女性よりも低い出生力にとどまる場合が多いことが明らかになった。

結論として、日本における外国人女性の流入による日本の出生力への影響は、諸外国の例と異なり、主に外国人同士のカップルの出生力が低いことから、ほぼ中立的（ゼロ）ということができるだろう。



出所：筆者作成

図 1 外国人女性の出生力の変化に関する概念図

表 1 同居児法によって求められた合計出生率（2010年）

	合計出生率 (TFR)	出身国出生率 (TFR)
中国人女性	0.87	1.7
フィリピン人女性	1.46	3.2
タイ人女性	1.04	1.4
ブラジル人女性	1.27	1.8
参考 日本人女性	1.31	-

出所：国勢調査個票データより再集計

表 2 静態的マイクロ・シミュレーションにより推定された合計出生率（TFR）

シナリオ	中国人女性	フィリピン人女性	タイ人女性	ブラジル人女性
シナリオ 1	0.71	0.82	0.81	0.75
シナリオ 2	1.13	1.29	1.15	1.14
シナリオ 3	1.02	1.36	1.61	1.10
シナリオ 4	1.15	1.38	1.21	1.45

注：日本人女性の推定値は 1.37（参考値）。

出所：筆者推定値